

令和6年度

# 学生によるオレンジリボン運動

## 愛知県立大学 実施報告書



実施主体 愛知県立大学村田ゼミ

実施内容 発展～参加の促しと仲間づくり

### ①事前に取り組んだ内容

1. 小山事件に関する当時の新聞記事から収集した情報を再構成し、事件概要の理解に役立てるとともに、通告のきっかけとなり得る場面の検討を行った。
2. 学内展示やポスターに含めるメッセージの検討、高校生の活動をサポートする前提として、これまでの授業内容の整理やゲームを通じて、子どもの権利（条約）や児童虐待に関する知識の再確認を行った。
3. 学内図書館での啓発コーナー設置に向けて、児童虐待に関する書籍をメンバーで精読し、ポップの作成に役立てた。

### ②実施期間に取り組んだ具体的内容

1. 在学生向け学習会の実施
2. 大学企画ミニオープンキャンパスを活用した高校生向け学習会の実施
3. オリジナルポスターの作成・掲示
4. オリジナルグッズの作成・配布
5. 「未来の子どもたちへのメッセージ」の募集・展示
6. 学内展示コーナーの設置
7. 学内図書館での子ども虐待防止啓発コーナーの設置
8. 「子ども虐待認識度調査」の実施
9. SNSでの活動報告
10. 活動の仲間づくり（高校生との活動）

### ③オレンジリボン運動を終えて・・・

〈オリジナルポスターの作成・掲示〉  
今年度の活動のコンセプトである「（これまでの活動の）発展」に則り、「継続することによる馴染み深さ」と「通告は親子の笑顔を守る行動である」というメッセージを意図して、2種類を掲示した。いずれも、手作り感を重視することで、温かい雰囲気のパosterに仕上げた。子育て世代を中心に幅広い年齢層に見てもらうために、近隣地域の子育て支援施設、公立図書館、市役所、社会福祉協議会、メンバーの出身高校など全26か所に配布し、児童虐待防止推進月間中に掲示を



依頼した。

#### 〈学内展示コーナー〉

単に見て終わるだけの展示にならないように、学内の学生や教職員の参加を促す仕組みを意識して、児童虐待防止推進月間の前後半の展示内容を変更した。加えて、2回にわたる校内放送とデジタルサイネージへの投影を行い、展示の周知とシールアンケートおよびクイズへの参加を促した。

#### 〈活動の仲間作り〉

クイズやゲーム、グループワークを通じた学習会を実施し、高校生が子どもの権利や子ども虐待に関する知識をわかりやすく学べるよう工夫した。その結果、高校生が主体となって子どもの権利に関するリーフレットを作成し、全校集会で配布するという活動につながり、運動のネットワークを広げることができた。この活動を通して、虐待を受けている子どものことを意識しながら、責任感を持って活動することの重要性を改めて認識することができた。

#### 〈「未来への子どもたちへのメッセージ」の募集・展示〉

学内学習会に参加した学部1年生によるメッセージに加えて、昨年度の活動に協力していただいた教職員、児童館、子育て支援施設、市役所等の職員の方々によるメッセージを、活動の紹介やクイズ、シールアンケート調査とともに展示した。

学生は自分自身の子どもに対する想いを言語化することで、子育て準備世代であるという自覚や「子どもの未来を守る大人になる」という意識を高めることができたのではないかと感じている。また、学内外の多くの方々からのメッセージの内容から、子どもたちをあたためて見守る方々がたくさんいることを実感した。

